銀行名	群馬銀行
タイトル	「事業性評価」に係る取組み
取組み内容	1．動機（経緯） （1）地域金融機関には、取引先企業の事業性評価に基づく課題解決策の提案、ならびに担保・保証に必要以上に依存しない融資等による経営支援の強化が求められている。また、過当な金利競争から脱却し地域シェアや収益を維持拡大するためには、資金供給力以外で他行との差別化を図る必要に迫られている。 （2）当行では、従来より、担保・保証に必要以上に依存しない融資やライフステージに応じた取引先のニーズに対応してきたが、組織的なノウハウの蓄積が十分とは言えず行内の体制整備が課題となっていた。 （3）群馬県は富士重工業の Tier1、Tier2 先をはじめとする自動車関連産業が多く集積しており、従事する労働者や属する事業所も多く、県内の製造品出荷額で約 3 割を占める等、地域に対する影響が大きいことから、地域の自動車産業の動向を調査・分析することが必要となっていた。 （4）以上を踏まえ、地域の基幹産業である自動車関連産業の事業性評価については、当該産業全体の評価・分析も行うため本部主導で専担者が実施することとした。そして、その他主要先等に対する事業性評価については、各営業店が主体となって、組織的な取組みを図ることとし、本部と営業店の 2 本立てで事業性評価を推進する体制とした。 2．内容 （1）自動車関連産業の事業性評価では、本部専担者が直接取引先を訪問するなど本部主導で実施する体制とした。評価シートを新たに開発し、平成 28 年 1 月から 3 社に対し試行した結果を踏まえ、4 月から本格的に展開し、今年度は 10～15 社を目安に評価を行う。なお、自動車関連産業でノウハウを蓄積した後、他の製造業分野へ対象業種を拡大していく予定である。 （2）営業店の主要先に対する事業性評価では、業種を限定せず営業店担当者が専用の評価シートを用いて企業の実態を把握し、経営課題やニーズ等を浮き彫りにして、課題解決策を含めた与信取組方針を策定することを目的としている。平成 28 年度上期中に 1 ヶ店 1 先の評価を行い、本中計期間中の 3 年間で 1,000 先の事業性評価を実施する計画である。 3．成果(効果) （1）自動車関連産業の事業性評価では、試行実施した 3 社からは、財務面だけでなく事業内容や組織、管理体制まで踏み込んだ分析結果を提示し、経営課題や戦略を整理し意見交換できたことが評価を得るとともに、今後、継続的に当行に相談をしていきたいとの意見をいただいた。 （2）営業店の主要先に対する事業性評価では、「事業性評価シート」を統一目線・ツールとして活用することで、一定の質を保ちつつ取引先企業の経営課題や真のニーズを把握することに繋がる。また、一連の取組みにより、行員のヒアリングやコミュニケーションの質を高めることも期待している。

銀行名	群馬銀行
タイトル	地域活性化ファンドを活用した取引先の成長支援
取組み内容	１．動機（経緯） （１）「ぐんま医工連携活性化ファンド」 中小ものづくり企業を中心とした取引先企業が、成長性のある医療機器産業へ参入する際の資金供給手段として、ファンド出資を行う。 （２）「ぐんぎんビジネスサポートファンド」 「ぐんぎんビジネスサポート大賞」応募企業に対し、資金面での支援をさらに充実させるとともに、「ぐんま医工連携活性化ファンド」投資対象分野以外への出資ニーズに対応して、ファンド出資を行う。 （３）上記のファンドを活用し、取引先へ成長マネーを供給することで、地域経済の活性化・地方創生に貢献していく。 ２．内容 （１）「ぐんま医工連携活性化ファンド」の活用 〈ファンド設立日〉　平成 26 年 11 月 17 日 〈ファンド総額〉　8.6 億円 〈出資実績〉　2 件／2.4 億円 〈主な出資先〉　企業名　㈱ＩＣＳＴ 〈事業内容〉　医療用機器販売業 〈出資額〉　約 4 千万円 〈出資時期〉　平成 28 年 3 月 （２）「ぐんぎんビジネスサポートファンド」の活用 〈ファンド設立日〉　平成 27 年 5 月 22 日 〈ファンド総額〉　5.0 億円 〈出資実績〉　8 件／2.2 億円 〈主な出資先〉　企業名　㈱シェリー 〈事業内容〉　ノベルティ製品製造等 〈出資額〉　1 千万円 〈出資時期〉　平成 28 年 3 月 ３．主な出資先に対する効果 （１）㈱ＩＣＳＴ ○ 当社は医療用機器の販売企業であり、国内外の販売会社を通じ、さまざまな製品を展開している。また、大学病院等と連携し医療現場のニーズを収集するなかで、医療従事者向けの製品など自社製品の開発に取り組んでいる。 ○ 本ファンドからの出資は、自社製品の開発を加速させるとともに、国内外の販売先を開拓するための人材強化に寄与することが期待される。 （２）㈱シェリー ○ 当社はノベルティグッズをはじめ、独自の情報漏えい防止技術を活用した製品を開発・製造販売する企業であり、本ファンドからの出資により、販売促進を加速させることを企図している。 ○ 当社は、特許庁が取り組む「『知財金融促進事業』による『知財ビジネス評価書』」を有しており、ファンド運営事業者であるぐんぎんリースも出資検討に際し同評価書を活用した。

銀行名	群馬銀行
タイトル	ビジネスネットワークづくりサポートのための「企業交流会 in 上海」の開催
取組み内容	１.動機（経緯） （１）中国が「世界の工場」から「世界の市場」へと変貌を遂げる中、日本における取引先に中国現地で納入するため進出した日系企業においても、現地での新たな販売先を求めるニーズが多い。しかし、中小企業単独での販路拡大には、人材不足、現地企業との競合、中国特有の商慣習等が支障となるケースが多く、ビジネスマッチングを望む声が高まっていた。 （２）上海周辺では様々な商談会が開催される一方、具体的な商談に結び付かないケースも多いため、当行は、現地に進出した地元取引先同士のネットワーキングと併せてビジネスマッチングを行うことを企画し、群馬県と共催で「企業交流会 in 上海」を開催した。 ２.内容 （１）日　　時　　平成 27 年 9 月 8 日（火）　17：30～20：30 （２）開催場所　　中国上海市内レストラン （３）主　　催　　群馬銀行・群馬県 （４）参加者数　　30 社 47 名 （５）内　　容　　取引先企業の事業内容や商談ニーズ、自社 PR を掲載した会社案内を当行独自フォームに記入いただき、参加者に事前配布。交流会では各社による自社紹介スピーチに引き続いて、相対による商談・情報交換の場を提供した。 ３.成果 試作・見積もりの可能性のある有効な面談　21 件 （参加いただいた取引先企業の声） ○「事前マッチングのおかげで、今後の取引に繋がる有効な商談ができた。」 ○「地元企業が中国で積極的にビジネス展開していることがわかり、今後の励みになった。」 ○「通常では接点のない異業種の方々と交流できる貴重な機会だった。今後も参加したい。」 （商談会風景）

銀行名	群馬銀行
タイトル	海外販路拡大ニーズへのサポート 「タイ・サミット・グループ」との個別商談会開催
取組み内容	１．動機（経緯） （１）2015 年末の AEC（ASEAN 経済共同体）発足に伴い、今後ヒト、モノ、サービスの自由化が進むことが見込まれている。特に日系製造業の巨大集積地であるタイにおいては、日系企業同士の競争が激化しており、今後の発展を目指すためには域内ビジネスを熟知している現地大手企業との取引を望む声が高まっていた。 （２）当行は海外進出後の支援の一環として、当行取引先を傘下に持つタイを代表する自動車関連企業「タイ・サミットグループ（以下、TSG）」と当行取引先の自動車部品製造業を営むタイ現地法人との個別商談会を開催した。 ２．内容 （１）日　　時　　平成 28 年 3 月 8 日（火）　13：30～18：30 （２）開催場所　　タイ・サミット・タワー（バンコク市内） （３）主　　催　　群馬銀行 （４）参加企業　　○ 当行取引先自動車部品企業　　12 社/25 名 ○ ＴＳＧ傘下企業　　7 社/19 名 （５）商談会内容　○ 事前マッチングに基づき TSG 傘下企業と当行取引先が相対の商談を各１時間実施。商談中に発掘された新たなニーズも、その場で別の TSG 傘下企業を紹介いただき商談を行うなど充実した内容となった。 ○ その後の交流会で、今後の取引開始に向けた話合いやタイにおけるネットワーク構築に向け情報交換を実施。 ３．成果 参加者アンケートの主な声として、「現在は日系企業との取引しかなく、タイ企業との商談会は非常にありがたかった」「TSG クラスの企業だと誰に会っていいかもわからず、当社単独では会えないような役職の方と面談でき、参加した甲斐があった」など好評をいただいた。 （開会セレモニー） （商談会風景）

銀行名	群馬銀行
タイトル	(株)地域経済活性化支援機構(ＲＥＶＩＣ)を活用した事業再生
取組み内容	１.動機（経緯） A社は、群馬県及び周辺地域に複合書店を展開し高い認知度を有している。 しかし、同業他社の進出や販売チャネルの多様化による競争の激化、活字離れによる市場の縮小等を原因として減収が続いていた。 収益性の悪化による恒常的な資金不足から在庫投資や設備更新が不十分となり、更なる業績悪化を引き起こす悪循環に陥っていた。 当行主導による事業・財務ＤＤの実施、及びスポンサーの選定を経て、抜本的な事業再建を図るためＲＥＶＩＣへの申込に至った。 スポンサーは、A社の仕入先で業界トップクラスの企業。事業に精通しており、高い店舗運営ノウハウも有していることが選定要因である。 ２.内容 （１）事業再生計画の骨子 ○ 店舗のスクラップアンドビルド ○ 顧客ニーズに見合う各種投資の実行（在庫、設備等） ○ スポンサーからの役職員派遣によるガバナンス強化 （２）再生スキーム ○ 既存株式を 100%減資した後にスポンサーが増資することで経営権を移譲 ○ 取引金融機関による金融支援 ３.成果（お客様にとっての効果） （１）地域における書籍流通の一翼を維持することができた。 （２）従業員の雇用を守ることができた。 （３）店舗の魅力向上への投資が可能となり、業績の改善が期待できる。

銀行名	群馬銀行
タイトル	社会貢献活動への取組み
取組み内容	１.動機（経緯） 企業理念「地域社会の発展を常に考え行動すること、これが私たちの事業です」、「よき企業人であるためによき市民であること、これが私たちの活動の基本です」に基づき、本業を通しての地域貢献のほか、ボランティア等の社会貢献活動や文化支援活動を行っている。 ２.取組み内容 （１）地域社会への貢献活動 ○ ＡＥＤの全店設置 ○ 点字名刺の全店での使用、点字通知サービス、ホームページの音声読み上げ機能追加など障がい者に配慮した取組みの実施。 ○ 助聴器、耳マークプレート、コミュニケーションボードなど各種コミュニケーションツールの全店窓口への設置。 ○ 町内会活動、清掃活動、商工会議所活動、地域のお祭りへの参加。 ○ 富岡製糸場清掃活動「リレー・フォー・クリーン」への参加。 （２）スポーツ振興 ○ バレーボール部「群馬銀行グリーンウイングス」の国体およびＶリーグへの参加。 ○「ぐんぎん杯ママさんバレーボール大会」の開催(平成 25 年～)。 バレーボール部によるバレーボール教室の開催。 Ｃ.ぐんま県民マラソンへの協賛。行員がボランティアに多数参加。 （平成 27 年度 74 名参加） （３）芸術・文化の振興 ○ 群馬交響楽団への支援。 賛助会員になるとともに、定期演奏会への協賛を実施。 ○ 群馬の風土を記録した「新春特別番組」の制作。地元テレビ局で元日に放送。平成 11 年 1 月からこれまで 18 作を制作。 平成 28 年は「麦のぬくもり～ぐんまの粉食文化～」を制作。 番組ＤＶＤを県内学校に寄贈。28 年は県教育委員会に 622 枚寄贈。

	○ 富岡製糸場・絹産業遺産群保護活動応援ファンド「群馬の絹遺産」の取扱い。信託報酬の一部を「富岡製糸場と絹産業遺産群」保護のために寄付。（平成 27 年度～、平成 27 年度寄付金　約 1 百万円） 3.取組みの効果 （1）社会貢献活動への取組みを通じて、地域の一市民として地域社会における役割を果たしていく。 （2）行員の社会貢献活動への意識が高まった。

銀行名	群馬銀行
タイトル	環境問題への取り組み
取組み内容	１.動機（経緯） 「群馬銀行環境方針」の制定（平成 21 年 5 月 1 日） 当行の環境への取組方針を明確化し、全行員の環境意識の向上を図るために制定。環境方針に基づく施策の実施や金融商品・サービスの提供を積極的に行っている。 （1）群馬銀行環境方針 環境と産業が両立する真に豊かな地域社会の実現を目指し、ふるさとの自然環境を大切にしていきたいと考えています。 環境保全に積極的に取組み、市民としての責任ある役割を果たしていきます。 （2）環境行動基準 ○ 省資源、省エネルギー、リサイクル活動を推進し、環境への負荷の低減に努めます。 ○ 金融商品・サービスの提供などを通じて、環境保全に取組みお客さまを支援します。 ○ 役職員に対する環境教育を推進し、役職員の環境保全活動を支援します。 ○ 地域における環境保全活動を支援します。 ２.取組み内容 （1）当行の取組み Ａ.商品・サービスを通じた取組み ○ 自然環境保護ファンド「尾瀬紀行」の取扱い。 信託報酬の一部を公益財団法人尾瀬保護財団に寄付。 （平成 27 年度までの寄付累計約 10 百万円） ○ 環境配慮型私募債の取扱い。 環境に配慮した取組みを行う取引先の私募債発行手数料を優遇。 ○ 省エネローン、マイカーローンの金利優遇。 環境に配慮した住宅設備を購入する場合の住宅ローンやエコカーを購入する場合のマイカーローンの金利を優遇 Ｂ.その他の取組み ○ 一部店舗に太陽光発電設備を導入。また、本部等に省エネタイプの空調、照明機器を導入。 ○「電気自動車用充電スタンド」１台を平成 26 年 9 月に本店駐車場に設置。 ○「クールビズ運動」の実施 ○ 県有林整備パートナー事業実施協定」を群馬県と平成 24 年に締結。赤城山内の県有林 3.69ｈａを「ぐんぎんの森」と命名し、整備に協力。毎年、新入行員研修で間伐・枝打ち作業を行い、環境意識向上に努める。

（２）公益財団法人群馬銀行環境財団の取組み

平成７年に企業理念である「地域社会の発展を常に考えて行動すること」の実践活動の一環として公益財団法人群馬銀行環境財団を設立。快適で健全な環境の整備・保全を目指し、助成活動や啓発活動を実施。

Ａ.助成事業

○ 財団賞…群馬県内の環境保全に取組む団体個人を表彰し助成金（1先あたり20万円）を交付。

○ 教育賞…環境活動に取組む小中高校を表彰し、助成金を交付。

Ｂ.啓発事業

○ 環境体験学習「環境探検隊」(中学生対象)の実施

平成8年から毎年2回実施。参加者累計219校、1,543名

○ 環境体験学習「エコ・キッズ・キャンプ in 赤城山」(小学生対象)の実施平成17年から毎年1回実施、これまで11回実施し参加者累計90校、293名

○ 群馬県の実施する「環境にやさしい買物スタイル普及活動」に協賛し、特製マイバッグを作成し、群馬県内の本支店で無料配布を行う。

３.取組みの効果

（１）地域社会における環境の取組みへの支援や当行の環境問題への取組みを通じて、銀行としての社会的責任を果たしていく。

（２）こうした取組みを通じて、行員の環境問題への意識の向上を図っていく。

銀行名	群馬銀行
タイトル	金融経済教育への取組み
取組み内容	１.動機（経緯） よき企業人であるためによき市民であること、これが私たちの活動の基本です」という企業理念に基づき、地域の一市民として、地域社会の役割を果たすために行っている社会貢献活動の一環として「金融経済教育支援」に取組む。 ２.取組み内容 （１）「エコノミクス甲子園群馬大会」の主催 ○ 平成 23 年より高校生を対象とした金融経済教育の場としてクイズ形式で金融の知識を学ぶ機会を提供。 ○ 平成 27 年度　10 校 21 チーム（42 名）が参加。 （２）高校生の本店見学受入れ ○ 各高校で実施している「キャリア教育」の一環で実施している職場見学の場として本店の見学を受入れ（平成 27 年度 4 校）。 ○ 本店営業部で窓口業務、出納業務などの見学、現金センターの見学を行うとともに、銀行業務や金融の役割などをレクチャーしている。 （３）小中学生の職場見学受入れ 地元の小中学生の職場見学、職場体験の場として支店見学を受入れ。 （４）大学における出前講座 群馬大学、群馬県立女子大学などへ出前講座を行い、金融の仕組みなどについて講義を行っている。 ３.取組みの効果 （１）「エコノミクス甲子園」では、「金融について学ぶよい機会となった」など参加者から好評を得ており、金融経済教育の場の提供という目的を果たしている。 （２）本店見学や職場見学では、普段銀行を訪れる機会の少ない生徒たちが、窓口や現金庫の様子を興味深く見学し、銀行業務を理解する機会の提供をしている。